

【別紙様式3】

再評価実施事業調書

番号	1	事業名	社会資本整備総合交付金 (街路事業)	路線又は箇所名等		野田都市計画道路 3・4・20号 今上木野崎線 野田都市計画道路 3・5・21号 亀山宿里線 野田都市計画道路 3・4・12号 宮崎山崎線		
事業所管課			道路整備課		事業主体		千葉県	
事業化年度	平成24年度	用地着手年度	平成25年度	工事着手年度 工事終了(認可)年度	令和7年度 令和15年度	再評価の理由	再々評価	
費用便益比 B/C	1.9 (3.9)	総費用	86億円 (42億円)	総便益	164億円 (164億円)	基準年	令和7年度	供用開始年度 令和15年度

※上段：全体事業 下段（ ）：残事業

【事業概要】

本路線は、江戸川に架かる玉葉橋と連絡する県道松戸野田線から、国道16号と交差し、県道我孫子関宿線に至る、東葛飾北部地域の新たな東西軸となる広域幹線道路である。

野田市山崎交差点から国道16号に至るまでの市道1260号線では、慢性的に渋滞が発生しており、踏切部はボトルネック踏切となっている。

本事業は、東武野田線との立体交差（アンダーパス）を含む約0.7kmを整備することにより、東西方向の道路ネットワークを強化し、梅郷駅周辺市街地に集中する交通渋滞の緩和やボトルネック踏切からの交通を転換し、市街地交通の円滑化を図るものである。

【事業の進捗状況】（令和7年度末見込み）

	全体計画(億円)	投資事業費(億円)	残事業費(億円)	進捗率(%)
全体	90.3	34.6	55.7	38.3%

【社会経済情勢等】

国道16号から玉葉橋までを結ぶ現道の交差点は、クランク形成をなしており、市道1260号線では、混雑度が高く渋滞が発生し、自動車交通量は9,985台/日、ボトルネック踏切の踏切交通遮断量は52,921台時/日となっている。

【対応方針（案）】 継続

費用便益比（B/C）が1.9（残事業3.9）であり、費用対効果が見込まれる。

整備効果として、野田市山崎交差点から国道16号までの南部工業団地入口交差点までの交通渋滞緩和や市道1260号線の交通が事業区間に転換し、交通の分散により安全性が向上する。

また、踏切に起因する渋滞の緩和や搬送時間短縮による救命率の向上が図られる。

事業完了目標を設定し、着実に事業を推進していることから、事業を継続し効果の早期発現を目指す。

【別紙様式4】

事業概要図					
番号	1	事業名	社会資本整備総合交付金 (街路事業)	路線又は箇所名等	野田都市計画道路 3・4・20号 今上木野崎線 野田都市計画道路 3・5・21号 亀山宿里線 野田都市計画道路 3・4・12号 宮崎山崎線
<u>位置図</u>					
					
<u>標準断面図</u>					
					

【別紙様式5】

再評価事業に関する調書

番号	1	事業名	社会資本整備総合交付金 (街路事業)	路線又は箇所名等	野田都市計画道路 3・4・20号 今上木野崎線 野田都市計画道路 3・5・21号 亀山宿里線 野田都市計画道路 3・4・12号 宮崎山崎線
事業化年度	平成24年度	用地着手年度	平成25年度	工事着手年度	令和7年度

【再々評価（R2年度）の概要】

再評価実施年度 (基準年)	令和2年度	供用開始年度	令和8年度	対応方針	継続
B/C	2.3 (3.2)	総費用	68億円 (47億円)	総便益	152億円 (152億円)

(※上段：全体事業 下段：()：残事業)

事業再評価時の委員会の意見及び当時の状況

- ・継続することが妥当である。

再評価時の進捗状況及び再評価時想定の5年後の進捗状況

	計画	進捗状況(R2)	5年後の想定進捗状況
全体事業費	82.0億円	22.2億円(27.1%)	82.0億円(100.0%)
用地取得面積	24,240m ²	16,301m ² (67.2%)	24,240m ² (100.0%)
供用面積(延長)	0m	0m(0%)	0m(0%)

【再々評価（R7年度）の概要】

再評価実施年度 (基準年)	令和7年度	供用開始年度	令和15年度	対応方針	継続
B/C	1.9 (3.9)	総費用	86億円 (42億円)	総便益	164億円 (164億円)

※上段：全体事業費 下段()：残事業費

現在の進捗状況

	計画	進捗状況 (令和7年度末)
全体事業費	90.3億円	34.6億円(38.3%)
用地取得面積	24,240m ²	20,903m ² (86.2%)
供用面積(延長)	0m	0m(0%)

再評価後の

経過

及び

処理状況

- ・令和2年度 再評価(継続が妥当である)

- ・工事、用地交渉を継続実施